

令和3年度 第34回九州中学生選抜ハンドボール大会 感染拡大防止ガイドライン 【R4.3.8改訂】

九州ハンドボール協会／熊本県ハンドボール協会
熊本県中学校体育連盟ハンドボール競技専門部

本ガイドラインは、「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」【(公財)日本ハンドボール協会】等を踏まえて、現段階で得られている知見等に基づき、第34回九州中学生選抜ハンドボール大会の開催にあたって作成しています。

また、今後の知見の集積及び新型コロナウイルスの感染状況により、随時見直すことがあり得ることにご留意ください。

健康観察について

- ① 「大会参加確認書」を「会場受付」に提出する。
(監督主将会議が開催の場合)「山鹿総合体育館」の会場受付
(監督主将会議が中止の場合)「競技第1日の各体育館」の会場受付
- ② 健康観察カード(別紙1「体調記録表」、または学校で使用しているもの可)を用いて、大会2週間前から生徒(選手)の健康状態の把握を行う。
チーム役員・トレーナー・感染症対策責任者についても別紙1「体調記録表」を用いて健康観察を行い、大会実行委員会(競技1日目会場受付)へ「生徒(選手)」、「チーム役員・トレーナー・感染症対策責任者」分をまとめて、試合当日提出する。
- ③ 大会当日朝、検温・健康観察を行い、別紙2「学校同行者体調記録表」を一覧にし、大会実行委員会(競技1日目会場受付)まで提出する。生徒(選手)・チーム役員の全員の検温や体調記録を記入すること。
- ④ 別紙3「行動履歴書」については、各個人に配布し、県外旅行・県外の人との接触・人が集まる場所等へ行ったなどの履歴を記入する。もし今大会で感染者が出た場合には、この「行動履歴書」の提出を保健医療機関から要求されることがある。

※大会実行委員会(本部)に提出された各書類は、大会実行委員会(本部)で保管し、大会終了2週間後に責任をもって破棄する。

参加不可となる場合について

以下の事項に該当する選手やスタッフ等は、大会に参加できない。

(大会当日に「体調記録表」「学校同行者体調記録表」で確認を行う。)

- ・体調がよくない場合(例:発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・頭痛等などの症状がある場合)

当日37.5℃以上の発熱をしている場合は、いかなる理由があっても会場の入場・試合の出場を認めない。

- ・新型コロナウイルス感染者と濃厚接触があると判断された場合。
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合。

- ・選手及びチーム役員の所属校（勤務先）が、新型コロナウイルス感染症による臨時休校（休業）、学年閉鎖、学級閉鎖の学年・クラス等に該当している場合は、各所属校学校長や教育委員会等と相談の上、検討すること。

参加者が行う感染拡大防止について

○マスクの着用

参加選手を含む大会関係者は、競技実施等・飲食中を除いて全員マスクの着用をする。
（熱中症等の健康被害が発生する可能性が高い場合は外す。）

○こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。

特に、入館時のアルコール消毒、試合や食事の前後の手洗いを必ず行う。

○手洗い後に手を拭くためのマイタオルを持参する。

○飲食物やタオルは個々に用意し、共用しない。

入館・会場使用について

○開館時間は競技3日間ともに8時00分とする。

○各チーム試合時間に合わせて会場入りする。感染を防止するために、試合開始時刻の1時間30分前とする。いずれもチームでまとまって入館する。

○観客席（待機場所）については場所を指定している。各会場において観客席の形態が違っているので、大会役員の指示に従い使用すること。学校名・チーム名を記入している場所で一つ席を空けたり間隔をとったりして使用する。

○その日の競技が終わったチームは、試合終了30分以内に退館する。

原則としてチーム一斉退館後の再入館は認めない。一部のチーム役員が、試合観戦のために館内に残ることも認めない。

○ゴミの持ち帰りを必ずする。

○二足制を守る。体育館フロアのみ体育館シューズを履く。外靴を体育館入り口に置かないで、チーム保管を行う。（シューズ袋を持参する）

更衣室・待機場所について

- 着替えをする場合、更衣室には最大4～5名、無言で着替える。
- 必ずマスクを着用し、着替えを行う。
- 男女とも試合後の着替え・片付けは 15～20分程度で終わらせるようにする。また、次の試合のチームと出来るだけ密にならないように、お互い配慮しながら使用する。

開閉会式について

- 開閉会式は状況により中止になることがある。表彰（賞状授与）については、準決勝・決勝後すぐに行う。

観客について

- 無観客試合とする。保護者の入場は認めない。ただし、感染症対策責任者については、その限りではない。また、けが・疾病等の医療機関への搬送を伴うような緊急・重篤な救急対応のみ、特別に入館を認める場合がある。その際には、受付で健康チェック及び検温を行ってからの入館となる。

UPについて

- アップは、体育館周りで行うこと。一般の方がいるのでボールの扱いには注意し、ロングパスは不可。チームスタッフがついた管理下でアップを行うこと。

競技中の注意事項について

- 今大会は「選手証（登録証）」の確認を行う。
- プレー中も選手、役員等同士の接触機会を減らすよう、以下の点に配慮する。
 - チーム役員は、このことをチームに周知し徹底を図る。
 - ・アップ中は（特に集団で）大きな声を出さないようにする（集団走は控える）
 - ・試合前後、試合中などの円陣やベンチでの集合時においても、できるだけ密集・接触を避ける。
 - ・試合後の挨拶はその場で礼をする。相手ベンチへの挨拶も行わない。
 - ・仲間と手をつないだり、肩を組んだりして行う円陣、ハイタッチは禁止する。
 - ・競技中、靴底を手で触らない。
 - ・ベンチは離れて座る。必要以上の私語は慎む。

ベンチ幅は椅子の間隔を保つため、主催者が定めた競技規則外の幅で設置する。

- ・タオル、水ボトルなどの共用は禁止し、個人の物を使用する。
- ・個人の水筒はベンチ下に置く。
- ・試合中コート内の選手はマスクを外し、ベンチにいる選手はマスクを着用する。

感染対策責任者について

○今大会は、監督・コーチなどのチーム役員とは別に「感染症対策責任者」大人1名を帯同させることが望ましい。学校教員や保護者でもよい。移動中・会場内での感染症対策の他、選手の中から発熱・体調不良者などが出た場合は、感染症対策責任者の管理下でホテル待機、医療機関の受診をする。また、試合中の荷物管理・選手が使用した観客席・更衣室等のアルコール消毒等を行う。

用具・試合ベンチ等の消毒について

- 前半が終了しチェンジコートの際、使用したベンチを速やかに消毒し移動する。両チームは、相手チームの消毒作業が終了するのを待って着席し使用する。試合終了後も前半終了と同様に使用したベンチを消毒し、コート外に移動する。
- 次チームは、前試合を終えたチームの消毒が終わった後、係員の指示に従って、コートに入場する。
- チーム責任者や審判、オフィシャル等が記録用紙にサインする際のペンは、各自で用意する。

昼食について

- 昼食は原則として観客席か屋外でとること。
昼食は向かい合わず、無言でとること。「黙食」すること。

救護について

- 試合中にケガ等があったとき、大会本部は応急処置のみを行う。
各チームは、万一の傷害に備えて必要な救急用品を準備しておく。

マナーチェック

○県代表としてふさわしい服装・身なり・行動を心がけるように各チームで指導を徹底する。

大会中の健康管理

- チーム責任者は、選手の体調不良の有無を確認する声掛けを行うなど、集合時から解散時まで、こまめに選手の健康管理を行う。
- 会場によっては換気のために2階の窓を開けるため、特に勝ち上がったチームで待機をする場合は寒いことも考えられるので防寒具等の準備をする。
- 競技等実施時を除いて、人と人との距離を確保する。(できるだけ2mを目安に最低1m) 大会中は大きな声での会話、応援等をしない。
- 自チームの試合終了後、チーム役員は選手等の健康観察を口頭等で行う。
- 選手の体調不良や救急搬送等の事態が発生し、保護者の同意や意向聴取が求められることも想定し、チーム責任者は保護者と確実に連絡がとれる体制を構築しておく。

その他

- 会場内の移動は、密を避けるため各会場の指示に従う。
- トイレ等は定められた場所を使用する。また、選手が集団で移動し、トイレ内が密にならないように配慮する。
- 観客席は、着席した際に一定の距離が保てるよう、荷物の置き方など配慮する。
- 通路の手すりや壁に触れないように移動する。また、通路やトイレでは必要以上の時間、立ち止まるなどして、歩行者との接触がないように注意する。
- 参加選手の飲食はチーム役員の責任においてさせるとともに、ゴミは各個人ですべて持ち帰らせる。特に、鼻水・唾液などが付いたゴミ・マスクは、個人が準備したビニール袋に入れて密閉し、縛った上で持ち帰らせる。万一、ゴミをチームで回収する際にはチームで準備したゴム手袋・使い捨て手袋などを着用し、密閉し持ち帰る。

参加選手またはチーム役員のウイルス感染が判明した場合の対応

(1) 大会2週間前 大会1週間前(7日前)

- ①当該参加選手やチーム役員が、新型コロナウイルス感染症(陽性者)と特定された場合の出場は認めない。

- ②当該参加選手やチーム役員が、新型コロナウイルス感染症（陽性者）濃厚接触者と特定された場合の出場（入場）は認めない。
- ③上記①②により、チーム編制に支障が発生する場合は、チームとして大会の参加をどうするか大会本部と協議する。

【上記以前の諸対応】

〈陽性者の活動復帰〉（有症状の場合）

発症日または検査で陽性が確定してから10日間を経過し、かつ症状回復後72時間を経過したのち。

または、症状回復後24時間を経過以降、24時間以上間隔をあげ、2回のPCR検査で陰性を確認されたのち。

〈陽性者の活動復帰〉（無症状の場合）

検体採取日から10日間を経過したのち。

または、検体採取日から6日間を経過以降、24時間以上間隔をあげ、2回のPCR検査で陰性を確認されたのち。

（2）大会期間中

- ① 発熱等の症状を訴える参加選手を確認した場合は、保護者に迎えに来てもらい、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- ② 上記①の選手からの聴取により、対面して一緒に食事をしたり、ホテルで同部屋だったりする等の接触があった者についても、念のため会場内における諸活動を中断させ、保護者に迎えに来てもらい帰宅させるかホテルに待機させる。
- ③ 上記①②により、チームから分離した役員・選手については、その後の参加を見合わせる。
- ④ 上記①②により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座にPCR検査結果が出ないことが想定される。チーム内に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合は、チームとして、その後の参加をどうするか大会本部と協議する。

（3）大会後（1週間）

- ① 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従うと同時に大会本部に連絡する。
- ② 感染者が発生した場合、感染者を特定しようとすることやSNS等で誤った情報を発信することがないように、すべての関係者に対してチーム内で指導を徹底する。